

## 令和2年度高萩清松高等学校自己評価表

目指す学校像	◎自主自律の精神を重んじ、知徳体にわたる「生きる力」を育成する。 ○自ら学び…生涯にわたって学び続けようとする姿勢 ○自ら創り…知識や情報の中から知恵を絞り新たなものを生み出す探究心 ○自ら拓く…人生を切り拓く強い意志				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
<p>成果は、教職員が様々な教育場面で適切な指導をしていることから、基本的な生活習慣の定着が進んでいることである。また、個に応じる丁寧な指導により、一人一人の進路実現を図ることができている。</p> <p>課題は、コミュニケーション能力の向上と基礎学力の定着である。また、様々な資格の取得や部活動加入率が高められるよう、今後も継続して取り組む必要がある。</p>	① 自主自律の精神と豊かな心の育成	<p>ア 基本的な生活習慣及び社会的ルールや社会生活に必要なマナーを身につけられるよう支援する。</p> <p>イ み(身だしなみ)「制服の正しい着用等」・そ(掃除)・あ(挨拶)・じ(時間を守る)を自ら進んで行える礼儀正しい誠実な生徒の育成に努め、地域から信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>ウ 「道徳」及び「道徳プラス」の指導を工夫し、他人を傷つけず、思いやりのある豊かな心を育成する。</p> <p>エ 生徒一人一人の個に応じたきめ細かな指導に努める。</p>	B		
	② 将来の夢や希望を実現するキャリア教育の推進	<p>ア 生徒が将来の夢や希望を実現できるよう、進路に応じた基礎学力の定着や資格取得に力を入れる。</p> <p>イ 進路実現に向け、家庭での課題を課したり、提出の期限厳守を徹底したりし、自宅学習を支援する。</p> <p>ウ 授業「産業社会と人間」等を通して、キャリア・パスポートを活用し、1年次からキャリア教育を実施することで、自ら進路を選択し、目標を決定できる力を育成する。</p> <p>エ 3年間を見通して、聴く力、表現する力、メモをとるなどのコミュニケーション能力を育成する。</p>	B		
	③ 他者との協働による特別活動の実践	<p>ア 部活動への積極的な参加を奨励し、主体的な活動で個性を伸ばし、さらに充実した学校生活を送らせる。</p> <p>イ 学校行事への積極的・意欲的な参加を促すとともに、ホームルーム活動、生徒会活動等を充実させ、達成感を味わわせ連帯意識を培う。</p>	B		
	④ 働き方改革とコンプライアンスの徹底	<p>ア 伝統として続いている学校行事は見直しを図る。</p> <p>イ 仕事の生産性を高め、業務の効率化に努める。</p> <p>ウ 教育者としての自覚をもち、服務規律の確保に努める。</p>	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教 科	国語 基礎学力の向上	・漢字を反復練習することにより、書く力の定着を図る。	A	B	<p>・漢字力の向上を図るため、定期的に小テストを行う。</p> <p>・年間計画にスピーチやディベートを取り入れる。スピーチコンテストを企画して生徒の「話すこと・聞くこと」の能力を養う。</p> <p>・作文指導を充実させる。行事の後に作文させられるような年間計画を立てる。</p> <p>・活動の時間と話を聞く時間のメリハリをつけさせる。</p> <p>・読書習慣の確立のために図書館の利用を促進する。</p> <p>・次年度から1人1台PCの運用が始まるので、国語便覧や国語辞書のデジタル教材の活用を図る。</p>
		・読書を通して語彙を豊かにし、一般的な読み取る力を身につける。	B		
		・感想文や意見文など文章を書く機会を多くすることにより、文章表現力を高める。	B		
		・1分間スピーチやディベートを行い、「話すこと・聞くこと」の能力を養い、コミュニケーション力を高める。	C		
	個に応じた指導の工夫と改善	・生徒の能力と実態にあった年間指導計画を作成し、それに沿った学習指導を実践する。	B	B	
		・授業内容を生徒の能力と実態に合わせ、達成感や充実感を味わえるように工夫改善する。	B		
成績不振者や欠課の多い者への適切な指導	・プロジェクターやIT機器等を有効活用して、生徒の理解力が高まるように努める。	A	A		
	・小テスト等を通して学習の理解度を確認し、学力向上に生かす。	A			
成績不振者や欠課の多い者への適切な指導	・考査の結果の悪かった者には、次回に向けての必要な補充指導を行う。	B	B		
	・欠課時数の多い者には、担任と連携して生活改善の指導を行う。	A			

地歴	基礎的な学力の向上	・個人発表の機会を通して、生徒一人ひとりの表現力を高める。	B	B	・生徒の実態に応じた指導を継続し、基礎学力の定着をはかる。 ・ICTの活用に向け、また生徒の興味・関心を高めるために、教材の工夫や資料の研究をしていく。			
		・プリントや資料・映像などを有効に活用して、学習内容の理解を高める。	A					
		・授業終了時に板書事項の書写を点検し、授業への集中力と理解度を確かめる。	B					
	一人ひとりの能力に応じた指導の工夫と改善	・授業内容を能力と実態に合わせ、興味関心を持つように工夫改善する。	A			B		
		・講義内容を精選し、興味関心を高める教材を利用する。	B					
		・自ら課題を見つけ、解決する力を養うためにアクティブラーニングの手法を取り入れ、活用する。	B					
	成績不振者や欠課の多い者への適切な指導	・考査の結果の悪かった者には、その時点で必要な補充指導を行う。	B			B		
		・授業終了後に板書事項の書写を点検し、授業への集中力を確かめる。	A					
	公民	基礎的な学力の向上	・個人発表を通して、生徒一人ひとりの表現力を高める。			B	B	・生徒の実態に応じた指導を継続し、基礎学力の定着をはかる。 ・教科書や新聞記事等に多く触れさせ、何が書かれているかを適切に読み取れるよう、力をつけさせる。 ・ICTの活用に向け、また生徒の興味・関心を高めるために、教材の工夫や資料の研究をしていく。
・プリントや資料を有効に活用して、学習内容の理解度を確かめる。			A					
・授業終了後に板書事項の書写を点検し、授業への集中力を確かめる。			B					
一人ひとりの能力に応じた指導の工夫と改善		・授業内容を能力と実態に合わせ、興味関心を持つように工夫改善する。	A	B				
		・講義内容を精選し、興味関心を高める教材を利用する。	B					
		・自ら課題を見つけ、解決する力を養うためにアクティブラーニングの手法を取り入れ、活用する。	B					
成績不振者や欠課の多い者への適切な指導		・考査の結果の悪かった者には、その時点で必要な補充指導を行う。	B	B				
		・欠課時数の多い者には、担任と連携して生活改善の指導を行う。	A					
数学		基礎的な学力の向上	・基礎的な計算能力を養うための教材を作り、計算力を高める。	A	A	・基礎学力向上のための、ICTの活用方法(タブレット授業)を工夫、検討する。		
	・ITを実施し、基礎学力の向上に努める。		A					
	希望する進路の実現	・就職対策のため授業規律を意識した指導をする。	B	B				
		・資格取得のための課外、実力養成のための課外授業を設ける。	A					
		・大学進学や専門学校、就職など生徒のニーズに合わせた進路別の授業を展開する。	B					
	指導方法の検討と体制の確立	・教科会を開いて情報交換を行う。	B	B				
		・評価方法及び授業の進め方の検討をする。	B					
	成績不振者への指導	・考査の点数が低い生徒に対して、必要に応じて定期考査前に個別指導を行う。	B	B				
		・習熟度別の講座を作り、少人数で実施し、基礎力の定着を図る。	A					
		・授業に集中していない生徒に対して、担任と連携を取りながら学力の向上に努める。	B					
	理科	科学的な探究力の向上	・観察実験等を通して、科学的な思考力を身に付けさせる。	B			B	・進学希望生徒についての課外授業の検討。 ・実験とICTの活用について授業での効果的な指導法の検討。 ・整然とした授業意識の確立
			・身近な自然現象を取り上げ、科学的な自然観を身に付けさせる。	A				
進路実現に向けた指導の充実		・生徒の進路希望に応じた課外授業を実施し、生徒の進路実現に努める。	B	B				
		・少人数制の授業により、生徒一人ひとりの能力に応じた指導方法を研究する。	B					
		・授業の中で演習問題を行い、希望する進路に対応できる学力を身に付けさせる。	B					
成績不振者や欠課時数が多い者への指導		・担任と連携し、生徒の学力向上及び学習態度改善に努める。	B	B				
体育	基本的な生活習慣の確立	・集団行動を通して、協調性を高め、規律ある行動がとれるようにする。	A	A	・集団行動を通して、さらに規律ある行動を目指す。 ・毎授業において、服装や髪形の指導をする。			
		・5分前行動を徹底させるため、教員が率先して5分前行動を行う。	A					

	基礎的な体力の向上	・生徒の能力に応じた年間学習計画の中に体力を高める運動を組みこむ。	A	A	・感染症予防対策を心掛け、種目の選択や実施方法にも配慮し、授業後の手洗い・うがいの励行を指導する。 生涯体育を意識して、教材を工夫する。 ・毎授業で、体力づくりを意識させる。	
		・体を動かすことへの興味関心を持たせる為、授業の工夫改善を行う。	A			
	生徒が興味関心を持つ指導方法と研修体制の確立	・教材研究に励み、良いものがあれば全体で指導ができるような体制をつくる。	A	A		
		・評価は、態度・出席・自主性を加味し総合的に行う。	A			
	成績不振者・欠課時数の多い者への指導	・成績不振者へは、担任と連絡を密にし、補習授業などを行う。	A	A		
		・欠課時数の多い者には、学年、担任とともに生活改善指導を行う。	B			
芸術	基礎学力の向上	・個に応じた指導の充実を図る。(個別課題の設定と個人指導を行う。)	A	A	・芸術への関心を深める  ・感染症対策の徹底	
		・生徒の感性を育てるための教材を研究し、生徒に応じた教材の精選と開発を図る。	A			
		・芸術を生涯にわたって愛好する心情を養うために、鑑賞の機会を増やすとともに、演奏会や展覧会等の情報を随時生徒に提供する。	A			
	個々の能力を伸ばすための指導の工夫と改善	・個別創作やレッスンを通して生徒の能力を把握し、それぞれに合わせた課題や教材を設定する。	B	B		
		・作品を完成させる喜びや楽曲を演奏できる喜びを体験させるために、生徒理解に努め、生徒の心情を十分に反映した作品ができるように面談や話し合いを行い、創作活動や演奏活動を援助する。	B			
		・芸術の歴史や知識を学び、より深く芸術に親しむことのできる生徒を育てるために、ワークシートやプリントを工夫し活用する。	B			
		・実技試験や作品発表会を行い、生徒自身の自己評価だけでなく生徒同士の相互評価を行い、よりよい創作活動へと意欲を高められるようにする。	A			
	指導方法の改善と評価	・芸術科による授業参観を行い、教科会における授業研究を行う。	C	B		
		・評価は授業に対する興味・関心・実力テスト・作品・レポート等を総合して評価する。	A			
	成績不振者等の指導	・欠課の多い生徒については、担任と連携して改善できるように指導する。	B	B		
・作品が提出できない生徒や表現活動ができない生徒については、生徒と面談をして意欲を高められるように補充指導や個に応じた課題を設定して指導する。		B				
外国語	基礎学力の向上・定着	・定期的に課題を与え、学習方法を学び、基礎を身に付けさせる。	B	B	・基礎学力の定着を引き続き図っていききたい。 ・タブレット導入や新教育課程などを意識した授業展開を目指したい。 ・英検合格率を上げる。 ・課外授業の細分化(大学・専門) ・生徒の学力に応じた教科書選定を行いたい。	
		・中学で学んだ文法事項の復習や新出事項の反復練習を通して、その定着を図る。	B			
	実践力やコミュニケーション力を付ける	・英検取得を奨励し、希望者を対象に補講を実施するなどして英検合格者を増やす。	B			
		・ALTを活用し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。 ・希望者課外等を通じて、上級学校受験にも対応できる応用力を付けさせる。	B			
家庭	基礎・基本の定着	・学習ノートや学習プリント、ICTを活用してわかりやすい授業づくりに努める。	B	B	・授業の中でICTを活用する場面を増やしたい。 ・学校家庭クラブ活動では、オンラインでの活動も視野に入れていきたい。	
		・提出物の確認を通して学習意欲を高めるとともに、つまずきに気づき支援する。	A			
	技術力の向上	・実習する時間を十分に確保し、実習助手と協力してきめ細かい指導を心がける。 ・技術検定の受験者全員合格を目指す。	A			A
	課題解決能力の育成	・ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、家庭や地域の生活を充実・向上させる力を育てる。	B			B
情報	情報リテラシーの育成	・情動的な見方や考え方を養う上で基礎となる態度、技能、知識を身につけさせる。	A	A	・次年度よりGIGAスクールの運用が開始されるので、PCの基本技能を年度初めに習得させ、各教科	
		・学習意欲の高い生徒や目標意識が明確な生徒に対して、発展的な学力をつけさせる。	B			

	一人ひとりの能力に応じた指導の工夫と改善	・学習意欲の低い生徒に対して、分かりやすく丁寧な指導を行う。	A	A	の授業で活用できる場면을早期に定着させる。 ・各教室にアクセスポイント設置されたため、生徒には正しい利用方法を伝えるなど、情報モラル指導の徹底、メディアリテラシー教育の充実を図る。
		・自らテーマ(問題意識)を持ち、自ら学び、自ら考える主体的な学習態度に結びつくような教材作りと探究的な授業展開の工夫を行う。	A		
		・定期試験は、普段の学習成果があらわれるように工夫して出題し、特に情報モラルの分野を盛り込む。	A		
	指導方法の改善と研修体制の確立	・生徒が満足できる授業の実践及び工夫改善のため、研修の実施に努める。	A		
		・評価は、授業態度、提出物、定期試験、検定試験等をふまえ総合的に行う。	A		
	適切な情報端末の使用についての指導	・生徒にスマートフォンなどの情報端末の適切な使用方法を指導し、生徒の生活に影響が無いように努める。	B	B	
工業	「技術者」としての育成	・「安全第一」の精神を浸透させ、「ゼロ災害」に努める。	A	A	・積極的に特別な配慮が必要な生徒の情報共有を図る。  ・生徒の特性に応じた指導の充実を図る。
		・安全靴、作業服をきちんと身に付けさせ、社会生活に必要なマナーを身につけられるよう支援する。	A		
		・報告書提出の期限厳守を徹底し、その重要性を理解させる。	A		
		・実習を欠席した生徒に対しては必ず補習を実施する。	A		
		・生徒が将来の夢や希望を実現できるように、資格試験の受験率・取得率の向上を図る。	B		
	基礎的な学力の向上	・ICTや補助教材を活用し基礎学力の定着を図る。	A	A	
	・一人ひとりの理解に応じた課題を設定し、きめ細かな指導に努める。	B			
	指導方法の改善と評価	・教科に関する研修会を実施して授業研究及び教材研究を行う。	B	B	
		・評価は、テスト点、課題提出状況、授業態度、報告書提出状況、出席状況等を観点別に評価し、総合的に判断して行う。	A		
商業	基礎的な学力の向上	・各種資格試験への取り組み姿勢や意欲を高めることを通して、問題解決能力の育成を図る。	A	B	・挨拶・言葉使いなどを各授業を通して身に付ける。 ・知識や技術を身に付けたものを活用できるようにする。
		・ビジネス学習を通して社会通念やビジネスマナーの定着を図る。	B		
	ひとり一人の能力に応じた指導の工夫と改善	・生徒の実態や能力に合わせた学習指導の進度を工夫し、指導効率を高める。	A		
	専門的な知識・技術の習得	・文書作成や情報処理などの学習を通して合理的に考え、処理していく能力を身につけさせる。	B		
福祉	基礎学力の向上	・社会福祉や介護福祉の理念、意義など基礎的、基本的な知識・技術を総合的に指導し基礎学力の向上に努めるとともに生徒が主体的に学習に取り組む態度を養う。	C	B	・主体的に授業に取り組む姿勢を身に付ける。  ・個々の興味・関心や資質・能力に応じた授業展開を工夫する。  ・教員同士、非常勤講師との連携を図る。
	実践的な態度を身に付ける	・介護実習や探究的な学びを通して、実践的な態度を身に付けさせる。	B		
		・校外での介護実習における他者との協働を通して、実践的な介護技術、態度を身に付けさせる。	A		
	個に応じた指導の工夫・改善	・生徒が社会福祉や介護福祉に興味・関心を持つことができるように、個々の生徒の能力と実態に合わせ、丁寧でわかる授業の展開に努める。また、介護福祉士国家試験に関連させた授業実践に努める。	B		
		・教員同士が情報交換し、個々の生徒に応じた授業方法を研究し、丁寧でわかる授業の展開に努める。	B		
	専門的な知識・技術の習得	・社会福祉や介護福祉について、医療・看護の分野などから専門的な知識・技術を習得できるよう配慮する。	A		
・最新の介護技術・理論について研究し、授業展開につなげる。		A			
介護福祉士国家試験の合格	・介護福祉士国家試験受験、合格に向けた働きかけを積極的に行う。	A			
	・定期的に介護福祉士国家試験対策課外を実施し、知識・技能の向上に努める。	A			
総合	自ら学ぶ姿勢の育成	・何のために学ぶのか、一人ひとりに目的や意義を考えさせる。	A	A	・探究的な学びの充実。

			・幅広い選択科目を用意し、生徒自らが選択した学習に取り組ませる。	A		
			・資格取得に向けた働きかけを積極的に行う。	A		
		コミュニケーション力の育成	・コミュニケーション力の基本として、相手の話を聴く態度を養う。	B		
			・講話や説明会、授業等で話を聞く場合に、メモを取る習慣付けを徹底させる。	B		
			・課題研究や研究発表、実習・体験学習、プレゼンテーション等を経験させて、表現力を育成する。	B		
		マナー教育の充実	・清潔感のある制服着用を徹底する。外部講師の講演を行い、意識付けをはかる。	C		
			・挨拶だけでなく、時・場所・場合における言葉遣いを指導する。	B		
		心の教育の推進	・就業体験などを通して、社会人になったとき、必要不可欠な「我慢する心」を育てる。	A		
			・地域のボランティア活動を通して、奉仕の精神・達成感・自己肯定感を育成する。	A		
		校務分掌	教務	円滑な教育活動の実践		
・教職員が円滑に連携し合える環境づくりに心がける。	B					
授業改善の推進			・授業公開・授業参観の機会を積極的に設けることで授業改善を行い、丁寧でわかる授業の展開に努める。	B		
			・教科横断的な視点から探究的な学びを取り入れ、生徒が将来の夢や希望を実現できるようキャリア教育を推進する。	B		
授業時間の確保			・出張や年休時の授業交換を励行し、自習時間の解消に努める。	B		
			・学校行事の能率的運営を図り、授業時間数を確保する。	B		
教育課程の編成と運営			・生徒の進路希望に合わせた効果的な教育課程を研究し、編成する。	B		
校内諸データの整備及び活用			・学校全体のデータ管理とデータ処理を行い、教育活動での活用を支援する。	A		
校内研修の充実			・人権教育等についての教職員の研修会を充実させる。	B		
			・研修の成果や情報を教員間で共有し、有意義なものになるように報告会を行う。	B		
広報活動		・中学校や地域関係機関に対して、本校の取り組みを積極的に伝え、理解と連携を図る。	B			
		・学校案内、学校便り、ハイスクールガイド、ウェブサイト等の充実を図る。	B			
ICT教育の活性化		・授業でのICT活用を推進する。	A			
		・情報機器の整備、拡充を図る。	B			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立		・挨拶の励行を人間生活の基本ととらえ、日常的・継続的に指導する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立。</li> <li>・身だしなみ確認週間を意識させ、身だしなみの徹底を図る。</li> <li>・非常勤の先生方も含めた特別教育支援に関する情報の共有化。</li> <li>・遅刻者の指導等、再違反者への指導。</li> </ul>	
			・日常生活において言葉遣いや礼儀の大切さをよく理解させ、使用の徹底をめざす。特に職員室の入退室のマナーを徹底させる。	B		
			・頭髪服装指導を継続して、社会で通用する身だしなみとマナーの習得に努める。特に女子の化粧をなくすよう日常的に指導する。	B		
			・欠席・遅刻・早退を少なくし、学校生活に前向きに取り組めるよう指導する。	B		
			・環境整美に努め、教室の床や廊下にゴミが落ちていない環境で学校生活を送らせる。	B		
			・SHRや年次集会を通して生活指導を継続的に行い、集団の一員としての帰属意識・個々の規範意識を高める。	B		
			・問題行動の未然防止のため、スクールバスの乗車指導、通学路の巡視指導、校内巡回指導を継続的に行う。	A		

	安全で安心な学習環境の確立と問題行動の未然防止	・心の教育を推進して他人を思いやる心を育み、いじめやかからかい、暴力のない安心して安全に生活できる健全な学習環境をつくる。	B			
		・貴重品や自転車等の盗難防止と自己管理の指導に努める。	A			
		・盗難防止のため、移動授業時の教室施設や貴重品袋の活用を徹底する。	B			
		・薬物乱用防止・交通安全・性教育・情報モラル教育等を行い、生徒の意識高揚を図る。	A			
		・スマホ等の利用について、適切な利用法を啓発し、いじめやかからかい、個人情報の流出等の問題行動を未然に防止する。				
	生徒の心情に沿ったきめ細かな指導	・日常の対話を重視して生徒理解に努め、年次と生徒指導部が連携して指導する。	A		B	
		・家庭との連携を密にし、小さなサインを見逃さないきめ細かな指導を行う。	B			
	地域との協力による生徒指導の推進	・家庭・近隣高校・関係機関と連携を密にして、地域全体で協力した生徒指導を行い、問題行動や事故の未然防止に努める。	A		A	
特別支援の必要な生徒への体制づくり	・特別支援の必要な生徒に対し、組織的な支援体制を整え、教職員で共通理解を持ちながら指導できる体制をつくる。	A	A			
特別活動	学校行事を通しての帰属意識・協調性の涵養	・学校行事への積極的・意欲的な参加により、達成感と所属感を体験させる。	B	・「ウィズコロナ」・「新しい生活様式」での感染対策をふまえたうえでの行事内容・運営を精査 ・各行事の早期計画化と教員・生徒への周知徹底 ・生徒主体の行事運営 ・部活動の活性化(部員不足問題・部員の意識改革、指導の在り方) ・部活動外部指導者及び研修会講師の活用検討		
		・学校生活の基盤としてHR活動を充実させ、心のふれあいを深め、協調性や連帯意識を培う。	B		B	
		・学校行事を通して、自主的・主体的な企画・運営のできる生徒会役員を育成する。	B			
	部活動の振興と活性化	・1年次生全員に部紹介・部体験等を実施し、部活動への積極的加入を勧める。	A		B	
		・中学生への体験入学における部紹介や、中学校訪問等で部活動のPRを積極的に行う。	C			
		・部活動に必要な施設設備の充実を図る。	B			
	生徒の自主的・主体的な活動の推進	・自主的な部活動の活性化のために、顧問が適切な指導を行う。	B		B	
		・ボランティア活動への参加を広く働きかけ、地域に貢献する心を育む。	B			
		・ホームルームや委員会、生徒会の役員等について、リーダー研修会等により資質を高める。	C			
	キャリア・パスポートの作成	・ホームルーム活動を通して、生徒が将来の進路を見据え、目的意識をもてるよう、キャリア・パスポートをどのように活用させていくかを指導する。	B		B	
	進路指導	希望する進路の実現	・生徒との面談及び保護者への連絡を密にし、各年次の保護者会等をとおして、進路講話を行う等して進路意識の高揚を図る。		B	・スタディサプリ・i-campusのコンテンツを利用し、コロナ禍の中でも学びの保証を行い、学習の遅れが発生しないように努める。また、進路情報もこのコンテンツを使って活用する。 ・コロナ禍の中でも、感染対策を徹底した進路行事の運営方法の確立。 ・日頃の学校生活の中で、将来の進路・信頼される社会人になることの意識づけを全教員で指導する。
			・講話やガイダンスの場面を活かして、聞く力、表現する力などコミュニケーション能力の育成をはかる。		B	
進学指導の充実		・進学希望の生徒に課外指導等を企画し、実力の養成を図ると共に希望する進路実現をめざす。	B	B		
		・スタディサプリの活用等、より効果的な進学指導の在り方の検討を継続して進め、より上位校への合格を目指す。	B			
		・総合型選抜や推薦入試での合格力を高めるために、小論文や面接指導を強化する。	B			
就職指導の充実		・1年次での就業体験や2年次での企業説明会を企画し、進路選択の一助とする。	B	B		
		・企業絞り込みを早めに行えるよう、進路資料室を充実させる等、情報収集・分析指導を行う。	B			
		・社会人としてのマナーを習得するなど、社会人準備講座を企画し、内定後の指導を充実させる。	B			

保健厚生	生徒と教職員の心身の健康の増進	・学校環境の安全点検を行い、安全で安心のできる学校生活を推進する。	B	A	・感染症予防対策の、呼びかけと精神面でのケアの継続。 ・環境美化への意識の啓発。(ポスターの掲示等) ・清掃の徹底を、根気よく指導し続ける。			
		・保健室の正しい利用と効果的な運営に努める。	A					
		・定期健康診断等の各種検査においては円滑で完全な実施に努める。	A					
		・感染流行時等の予防・衛生活動や精神面でのケアを推進する。	A					
	学習環境の整備	・より現実に則した防災避難訓練を実施し、非常時の安全確保に努める。	B			B		
		・教育相談における担任・学年及び生徒指導部との連携とバックアップの体制を整える。	A					
		・生徒指導部と連携し、専門家の性教育・薬物乱用防止教育・禁煙教育等を実施する。	A					
		・環境美化と汚さないことの重要性を理解させる。	B					
		・清掃の徹底と適切なゴミの分別を目指す。	B					
		・清掃用具の管理点検と補充に努め、環境美化を推進する。	A					
		・暖房器具の安全管理と事故防止に努める。	A					
	図書	図書館利用の増進	・生徒の希望図書を拡充し魅力ある本の選定に努め、図書館の利用率を向上させる。			B	B	・貸出数・利用数の増加に向けた取り組み (ポイントにより賞品を贈る) ・図書委員会を更に活発に活動する。
			・図書委員会の活動(「図書だより」の発行や書架整理など)を活発にする。			A		
・読書週間を通して、読書に親しみ、楽しむ生徒の増加を図る。			B					
・魅力ある図書館の雰囲気をつくる。			A					
視聴覚教材の活用		・授業等における視聴覚教材の活用を推進する。	A	A				
渉外	PTA活動から開かれた学校づくりを推進する	・各種委員会を効率的に実施し、積極的な参加を図る。	／	A	・感染症予防に対応した内規の改正。 ・感染症予防に対応したPTA総会などの運営方法の確立。 ・PTA役員の選出方法の確立。			
		・PTA総会や各行事への参加を安全面に配慮して促し、有意義な活動ができるようにする。	A					
		・PTA活動を通して保護者と職員との連携を図り、学校教育への理解を求める。	A					
		・広報活動を活発に行うことで学校行事やPTA活動の紹介や教育活動の様子を知らせ、開かれた学校づくりを推進する。	A					
		・よりPTAの実態に即した内規になるよう見直しを行う。						
年次	1年次	基本的な生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣と社会的ルールを身に付ける。	A	A	・一年を通して、自宅学習など、いろいろな制約はあったが、概ね落ち着いた態度で生活ができた。次年度は、学力をいかに伸ばしていくかが課題。  ・制約がある中でも、先生方の努力により、最低限の行事はこなすことができたのは、今後の高校生活にも良い影響があると思う。次年度は修学旅行などの大きな行事があるが、今後も継続して実施できるかが心配である。		
			・日常生活や高校生活の基本を身に付けさせ、欠席、遅刻、早退を防止する。	B				
			・礼儀正しく、約束、規則を守る誠実で規範意識の高い生徒を育てる。	A				
			・服装、頭髪指導を継続的に行い、高校生らしい身だしなみを身に付けさせる。	B				
	学習指導の充実	・授業に集中させ、学力の向上を図る。	A	B				
		・個に応じたきめ細かな指導に努める。	B					
		・家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B					
		・自ら学び、自ら考える主体的な学習姿勢を育てる。	A					
	生徒指導の充実	・日常の観察や面談を通し、生徒の実態把握に努め、生徒指導に生かす。	A	A				

		・小さな変化を見逃さず、早めの指導、個に応じたきめ細かな指導を行う。	A			
		・保護者と連携した指導を行い、問題行動を未然に防ぐ。	B			
	心の教育の充実	・他人を思いやる心を大切に、安全で安心のできる落ち着いた生活環境を作る。	A	A		
		・毎日の清掃より、勤労と奉仕の精神を育む。	A			
		・情緒の安定に努め、自己を抑制する能力を高める。	A			
		・「道徳」の授業を充実させることにより、豊かな心の育成に努める。	A			
			A			
	進路指導の充実	・「産業社会と人間」を中心に、自己を探求する姿勢を培い、進路実現に向けて段階的に指導していく。	A	B		
		・課外授業やスタディサプリ等の課題により実践力養成に努める。	B			
		・挨拶、言葉遣いなどの基本を身に付け、コミュニケーション能力を高める。	B			
	部活動・学校行事・HR活動の活性化	・文化祭やクラスマッチ等の行事に積極的にかかわることで、協調性を養い、達成感を体験させる。	B	A		
		・部活動や委員会活動に積極的に参加することで、学校生活をより充実させる。	A			
		・クラスでの役割を、責任を持って実施させることにより、ホームルームの一員としての自覚を持たせる。	A			
	円滑な年次運営	・年次会や年次朝会等で情報交換を密にし、協力して指導にあたる。	A	A		
2年次	基本的な生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣を身に付けさせ、特に時間のけじめをつけ欠席・遅刻・早退の防止に努める。	B	B	・家庭学習を含め、自分で勉強する姿勢を身につけさせ、進路決定の道筋を考させる。 ・言葉をかけることに加え、生徒に向き合った生徒指導をする。	
		・他人に迷惑をかけないという社会的ルールを身に付けさせる。	B			
		・元気よく挨拶し、礼儀正しく、約束を守り、嘘をつかない誠実な生徒育成を進める。	B			
		・頭髪服装指導を継続的にを行い、社会で通用する身だしなみを身に付けさせる。	B			
	学習指導の充実	・授業に集中させ、学力の向上を図る。	A	B		
		・自己管理能力を向上させ、個に応じた指導に努める。	A			
		・家庭学習の習慣化、本や新聞を読む習慣を付けさせる。	B			
		・自ら学び、自ら考える主体的な学習姿勢を育てる。	B			
	生徒指導の充実	・日常の観察や面接を通し、生徒の実態把握に努める。	A	A		
		・家庭との連携を密にして、小さなサインを見逃さないきめ細かな指導を行う。	B			
		・欠席・遅刻・早退の多い生徒には、保護者と連携した継続指導を行う。	A			
	心の教育の充実	・マナー教育を推進し、他人を思いやる心を育成して、安全で安心のできる落ち着いた生活環境をつくる。	A	B		
		・修学旅行を通じて、平和教育の充実を図る。	／			
		・環境教育に努め、環境に配慮できる心を育む。	B			
		・将来、就業するにあたって必要となる「我慢する心」を育てる。	B			
	進路指導の充実	・進路指導部と連携を密に取り、キャリア・パスポートを活用し、進路実現に向けて段階的な指導を進める。	A	A		
		・学力増進を希望する生徒への課外指導を行い、実力養成に努める。	A			
		・基本的な生活習慣(挨拶・容姿・言葉遣い・出席)の定着化、およびコミュニケーション力の育成をめざす。	B			
	部活動・学校行事・HR活動の活性化	・各行事への積極的な参加を促し、団体行動に慣れさせつつ協調性を養い、所属感・達成感を体験させる。	B	B		
		・部活動に積極的に参加させ、学校生活をより充実したものにさせる。	B			
	円滑な年次運営	・年次会等で情報交換を密にし、仕事を分担し、協働体制で指導する。	B	B		



3年次	基本的な生活習慣の確立	・基本的な生活習慣及び社会的ルールや社会生活に必要なマナーを身に付けさせる。	B	B	<p>・【学習指導】</p> <p>・ICTを十分に活用した授業の工夫が必要。一部の先生が、というよりはできれば学校全体で。</p> <p>・授業の充実と、勉強への意識を高め、自宅でも学習する習慣を身に付けさせたい。</p> <p>・オンライン学習の活用と問題点の把握が必要。</p> <p>【生徒指導・特別支援】</p> <p>・発達障害など特別な支援、配慮を要する生徒への対応</p>
		・日常生活や高校生活の基本を身に付けさせ、欠席・遅刻・早退の防止に努める。	B		
		・礼儀正しく、約束・規則を守る誠実で規範意識の高い生徒を育てる。	B		
		・頭髪服装指導を継続的に行い、社会で通用する身だしなみを身に付けさせる。	B		
	学習指導の充実	・授業に集中させ、基礎学力の定着や資格取得に取り組ませる。	B		
		・個に応じたきめ細かな指導に努める。	B		
		・家庭学習の習慣を身に付けさせる。	C		
		・自ら学び、自ら考える主体的な学習姿勢を育てる。	B		
	生徒指導の充実	・日常の観察や面接を通し、生徒の実態把握に努める。	B		
		・家庭との連携を密にして、小さなサインを見逃さないきめ細かな指導を行う。	B		
		・欠席・遅刻・早退の多い生徒には、保護者と連携した継続指導を行う。	B		
	心の教育の充実	・他人を傷つけず、思いやりのある豊かな心を育成して、安全で安心のできる落ち着いた生活環境をつくる。	B		
		・最上級生であることを自覚させ、下級生の模範となるような言葉遣いや行動が取れるよう、年次集会等で意識付けを図る。	B		
		・共有空間の使い方を意識させ、生活空間をきれいにする心を育む。	B		
		・将来、就業するにあたって最も必要となる「我慢する心」を育てる。	B		
	進路指導の充実	・進路指導部と連携を密に取り、キャリア・パスポートを活用し、進路実現に向けて段階的な指導を進める。	A		
		・学力向上を希望する生徒への課外指導や学習アドバイスをを行い、実力養成に努める。	B		
		・資格取得を推奨し、自己啓発および進路実現の一助となるようにする。	B		
		・挨拶・身だしなみ・言葉遣いなどの基本を定着させ、さらにコミュニケーション能力を高める。	B		
	部活動・学校行事・HR活動の活性化	・各行事の主体的な計画や参加により協調性を養い、帰属意識を高め、行事を成功させることにより、個々の成長を促がす。	B		
・部活動や委員会活動に積極的に参加させ、学校生活をより充実させる。		B			
円滑な学年運営のための働き方改革とコンプライアンスの徹底	・年次会等でクラス横断的に情報交換し、共通理解のもと協力して指導にあたる。	A			
	・学年行事の見直しを行い、選択と集中に努め、業務効率化を図る。	B			
	・心身ともに健康に先生方の専門性を十二分に発揮して頂けるよう、健康管理に努める。	A			

評価【5段階評価】 A：達成した(達成率75%以上) B：ほぼ達成した(達成率50～74%) C：達成やや不十分(達成率25～49%) D：達成不十分(達成率24%以下) E：できない